

# 第1回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

## 【次第】

日時 令和8年5月11日（月曜日）15：00～16：30

場所 海老名市役所 401 会議室

### 1 開会

- 海老名市教育委員会教育長 伊藤 文康
- 神奈川県教育委員会教育長 花田 忠雄

### 2 報告

- (1) 「5年間の取組計画」の見直しについて
- (2) 令和8年度 対話の場について
- (3) 令和7年度 有識者等による外部評価について
- (4) フルインクルーシブ教育推進アドバイザー派遣事業について

※書面報告のみ

・海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の年間計画

### 3 議題

- (1) 令和8年度の主な取組計画について
  - ① 調査研究部会について
  - ② 令和8年度 教育支援コーディネーターの取組について
  - ③ 就学相談について

(2) その他

### 4 事務連絡

- ◇第2回推進会議 8月26日（水曜日）14：30～16：00（場所：県庁本庁舎大会議場）
- ◇調査研究部会（第1回）令和8年 6月26日（金曜日）10：00～

（配布資料一覧は裏面）

**【配布資料】**

- (資料1) 5年間の取組計画（令和8年度版）
- (資料2) 令和8年度 対話の場について
- (資料3) 令和7年度 有識者等による外部評価 評価報告書まとめ
- (資料4) フルインクルーシブ教育推進アドバイザー派遣事業について
- (資料5) 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会について
- (資料6) 調査研究部会について
- (資料6-2) 調査研究部会の構成員について
- (資料7) 令和8年度 教育支援コーディネーターの取組について
- (資料8) 就学相談について
  
- (参考資料1) 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 設置要綱
- (参考資料2) インクルーシブ教育の更なる推進に向けた連携と協力に関する協定書（写）
- (参考資料3) 令和8年度 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 組織図
- (参考資料4) 令和7年度 評価報告書

令和8年度 第1回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 名簿

【構成員】

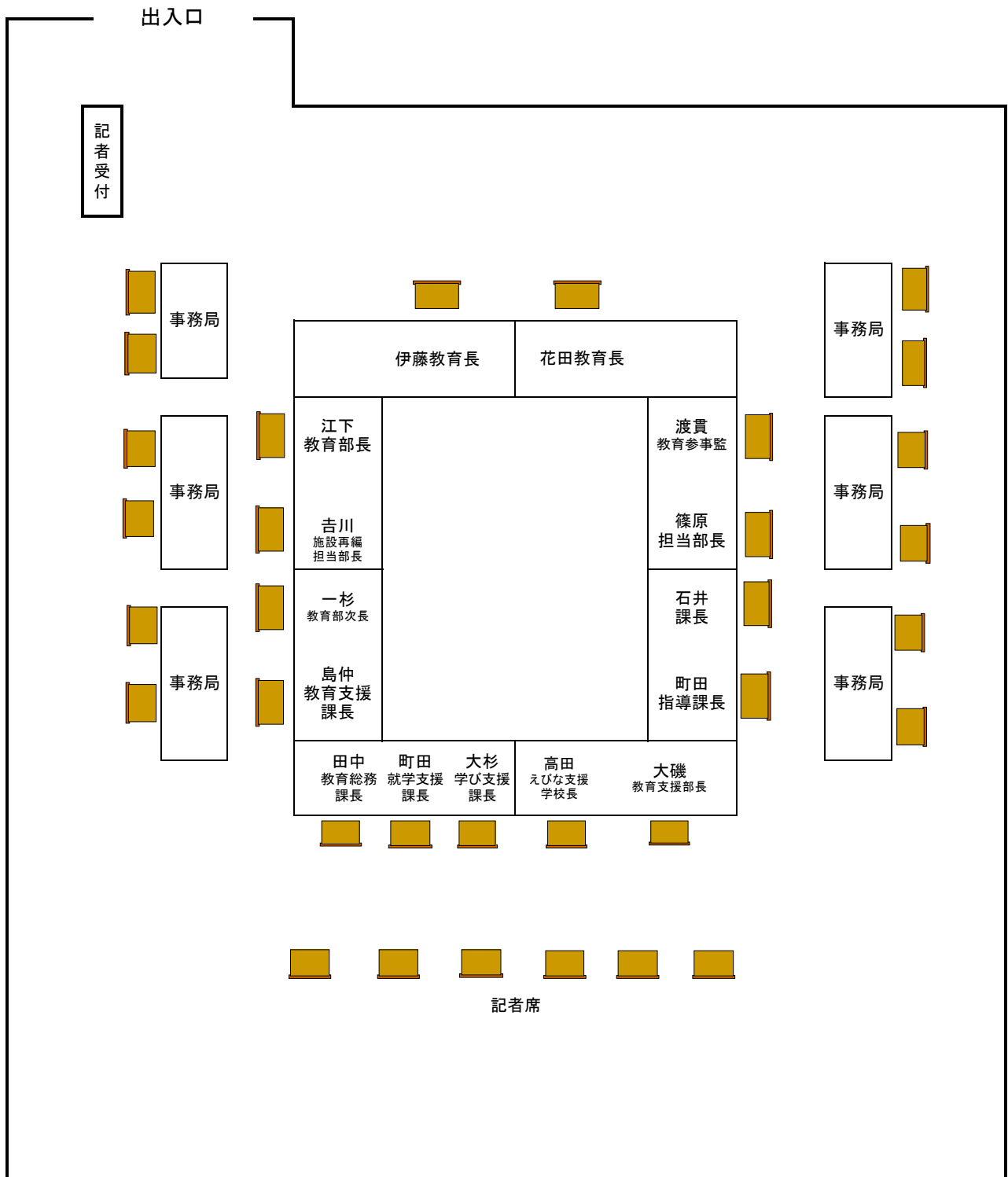
1	海老名市教育委員会	教育長	伊藤 文康
2		教育部長	江下 裕隆
3		教育部学校施設再編担当部長	吉川 浩
4		教育部次長	一杉 幹也
5		教育部専任参事 兼 教育支援課長	島仲 京子
6		教育総務課長	田中 歩
7		就学支援課長	町田 誠祐
8		学び支援課長	大杉 誠
9	神奈川県立総合教育センター	教育支援部長	大磯 美保
10	県央教育事務所	指導課長	町田 一則
11	神奈川県立えびな支援学校	校長	高田 君恵
12	神奈川県教育委員会	教育長	花田 忠雄
13		教育参事監（学校教育担当）	渡貫 由季子
14		インクルーシブ教育推進担当部長	篠原 朋子
15		インクルーシブ教育推進課長	石井 晴絵

【事務局】

16	海老名市教育委員会	教育支援センター所長	小藺 洋
17		教育支援課指導係 指導主事	五十嵐 光
18		教育支援課支援係 指導主事	豊山 花林
19		教育支援課支援係 指導主事	小原 瑠美
20		教育支援課支援係 指導主事	伊藤 紀貴
21	神奈川県立総合教育センター	学校教育支援課 指導主事	池田 知子
22	神奈川県教育委員会 インクルーシブ教育推進課	課長代理 兼 事業調整グループ GL	木下 亜希子
23		事業調整グループ 副主幹	花田 竜也
24		指導グループ GL 兼 指導主事	大原 照恵
25		指導グループ 推進市町村担当班長 兼 指導主事	村井 宏行
26		指導グループ 指導主事	稲富 啓太
27		指導グループ 指導主事	高橋 了士

# 令和8年度第1回海老名市・県フルインクルーシブ 教育推進会議 席次表

令和8年5月11日(月)15:00～ 海老名市役所 401会議室



推進の柱	No	項目	令和6年度の取組	令和7年度の取組	令和8年度以降の取組	令和10年度の姿
<b>A みんなでめざす</b> ○インクルージョンへの理解・啓発を促進しインクルーシブ・シティとしての海老名市をめざします。 ○教職員・保護者・市民の研修を充実させます。 ○インクルージョンについて市民とともに考える場を設置します。 ○多くの方に取組を積極的に発信します。	①	対話の場の開催	市民、教職員、障がい者団体、不登校支援団体との対話の場の実施	こども、保護者、えびな支援学校教職員及び市内在住保護者との対話の場の実施	学校運営協議会や市民との対話の場の実施	○対話の場や研修会の継続により、海老名市のこどもに係るすべての人のインクルージョンの理解が深まっています。 ○市民会議が定期的に開催され、市全体としての取組が図られています。 ○シンポジウムの開催などにより、取組や成果を広く発信しています。
	②	研修会の開催	教職員研修会、市民学習会の実施 今後の研修会のあり方についての検討	教職員研修会、市民学習会の継続・充実	教職員研修会、市民学習会の継続と充実	
	③	シンポジウムの開催	開催規模、スケジュール等の検討	県内シンポジウム開催に向けて協議を開始	県内シンポジウムの開催と、全国シンポジウムに向けて協議を開始	
	④	市民会議の設置	会議設置に向けた計画の検討	市民との議論をさらに進めるための市民会議の設置に向けて協議開始	令和9年度市民会議設置準備と企画運営についての協議継続	
	⑤	ホームページ開設とSNSでの発信	広報に係るホームページ開設等の検討	ホームページを開設し、対話の場や研修会の様子等を広く発信	ホームページの充実を図り、対話の場や研修会の様子等を広く発信	
<b>B みんなで支える</b> ○個別の支援計画をもとに、校内支援体制の充実を図っていきます。 ○校内の様々なリソース（資源）を充実させひとりひとりの学びを保障します。 ○こどもたちの支援のあり方について、研究していきます。 ○保護者や地域の方々、支援学校や関係機関と連携して、こどもたちを支えていきます。	⑥	教育支援コーディネーター（※1）を中心とした校内支援体制の充実（学校）	校内支援体制モデルの検討	教育支援コーディネーターを中心とした校内支援体制の協議	教育支援コーディネーターを中心とした新たな校内支援体制の構築と、教育支援コーディネーター研修の充実	○校内支援体制と様々なリソースの充実により、学級をホームとした教育活動が進められています。 ○教育支援委員会では、こどもたちにとってよりよい支援のあり方についての協議が行われています。 ○保護者や地域の方々、特別支援学校や関係機関との連携による教育活動が進められています。
	⑦	学級をホームにする研究（学校）	学級をホームにしていけるための協議、検討	各学校での試行と取組の充実のための情報共有	各学校での取組の共有による研究の継続	
	⑧	個別の支援計画「えびなっこ支援シート」の運用	作成の実施、検証	個別の支援計画の作成による支援の実施	個別の支援計画を活用した支援の充実	
	⑨	スペシャルサポートルームと心の教室（※2）の活用推進	研究委託の検証	教室環境や支援体制の充実による活用の推進	教室環境や支援体制の充実による活用の推進	
	⑩	就学相談のあり方	就学相談・教育支援委員会のあり方、時期の検討	ひとりひとりのこどもに応じた支援について話し合う就学相談・教育支援委員会のあり方の検討	4歳児から始まる就学相談のスケジュールを作成し、ひとりひとりに応じた支援を考える教育支援委員会のあり方の検討	
	⑪	特別支援学校との連携	センターの機能の活用、特別支援学校との連携についての検討	特別支援学校との連携の充実と居住地交流の拡大に向けた検討	特別支援学校との連携の充実と居住地交流の拡大に向けた検討	
	⑫	支援ボランティアの配置	現行体制の見直しと新たな支援体制の検討	支援ボランティアの配置と研修の実施	支援ボランティアの周知拡充による配置と研修の実施	
	⑬	関係機関・民間事業者との連携	対話の場において、フルインクルーシブ教育についての意見交換を実施	関係機関・民間事業者との連携強化	関係機関会議での対話や情報共有を行うとともに、ケースに応じた相談等による連携強化	
<b>C みんなで見直す</b> ○フルインクルーシブな視点による学校づくりを進めるとともに、授業や学習評価のあり方についても見直しを図ります。 ○学級をホームにするために、学級規模や学級などの制度の見直しを図ります。	⑭	学校教育活動での取組	各学校における包摂的な学校づくりの実践	各学校における取組の継続と教育委員会としての支援の強化	各学校における取組の継続と情報の共有	○フルインクルーシブな視点による学校づくりが進み、授業や学習評価のあり方についての研究が進んでいます。 ○学級をホームにするために、学級規模や学級などの制度の見直しに取り組んでいます。
	⑮	学級をホームにする研究（制度）	学籍のあり方についての協議	学級をホームにするための制度見直しについての協議	学級をホームにするための制度見直しについて国・県との協議継続	
	⑯	授業・学習評価のあり方	授業や学習評価のあり方についての協議	フルインクルーシブな視点による授業と学習評価のあり方についての情報収集と協議	フルインクルーシブな視点による授業と学習評価（通信表）のあり方についての研究	
	⑰	教育支援コーディネーターの専任化	教育支援コーディネーターの役割と専任化についての協議	教育支援コーディネーターの専任化を進め、その活用についての研究	教育支援コーディネーターの専任化による効果検証と、活用についての研究	
	⑱	学級規模と人的配置の工夫改善	現状の課題についての協議・検討	現状の課題について協議継続	制度の見直しと人的配置の工夫改善についての研究継続	
<b>D みんなで整える</b> ○すべてのこどもが地域の学校で学べる生活・学習環境を整えます。	⑲	教室の環境整備	だれもが学びやすい教室環境についての協議	だれもが学びやすい教室の実現のための計画的な環境整備	だれもが学びやすいモデル教室を設置し、その効果検証による教室環境整備推進	○校内のリソースの充実に向けた、環境整備が進められています。 ○学校施設のバリアフリー化に向けて、計画的に整備が進められています。
	⑳	学校の施設整備	学校のバリアフリー化に向けた検討	学校のバリアフリー化に向けた計画的な学校施設整備の継続	学校のバリアフリー化に向けた計画的な学校施設整備の実施	
	㉑	通学・移動等の学校生活支援	通学・移動等の支援についての課題の検討	通学・移動等の学校生活支援に係る支援制度の検討開始	通学・移動等の学校生活支援に係る支援制度の検討・実施	

（※1）教育支援コーディネーターとは、すべてのこどもが学級をホームとしてともに学ぶことができるよう、教育環境や支援のあり方などをコーディネートしていく役割をもつ。

（※2）スペシャルサポートルーム（小学校）とは、不登校状態であったり、集団生活が苦手であったりすることや、クールダウンが必要な場合において、教室に行くことができない児童が教室以外で安心して過ごせる居場所である。また、同様に心の教室（中学校）とは、不登校状態であったり、集団が苦手であったりする等を理由に教室に行くことができない生徒が利用する居場所である。

## 【対話の場】令和8年度の取り組みについて

目的：フルインクルーシブ教育を推進するために、対話を通じて海老名の教育について考える機会とする。

## 1 学校運営協議会での対話の場

対象) 海老名市立小・中学校（各校、又は中学校区）学校運営協議会構成員

日時) 学校運営協議会開催日の同日 60 分程度

内容) フルインクルーシブ教育に関する意見共有と対話を実施。

## 2 県内向けシンポジウムにおける対話の場

対象) 県内教職員、県内市町村教育委員会、地域住民、保護者、  
不登校支援団体、障がい者団体、等

日時) 令和8年11月18日（水）13:30～16:30

内容) 学校の実践報告や、参加者との対話を通し、フルインクルーシブ教育の推進を協議。

## 3 メタバースでの対話の場

対象) 県民

日時) 11月頃を予定

内容) オンライン上での対話により、対面が難しい方も参加できる対話の場を開催。

## 4 市民向け対話の場

対象) 海老名市民

日時) 12月を予定

内容) フルインクルーシブ教育の進捗確認と、今後の推進に向けた対話の場を開催。

## 5 児童・生徒向け対話の場に向けての研究

対象) 市内小中学校

日時) R8年7月～R9年2月の間で学校と調整

内容) 先生方との協働による、対話の場に向けた指導案・方針の検討およびプレ実施。

## &lt;全体のスケジュール&gt;

	①学校運営協議会 対象対話の場	②シンポジウム	③メタバース	④市民対象 対話の場	⑤児童・生徒対象 対話の場
6月	各校又は中学校区 での開催	発表校との打合せ、準備			学校と調整し プレ実施
7月					
8月		広報開始 参加募集開始			
9月					
10月		開催（18日）			
11月			メタバース開催予定		
12月				開催予定（市役所）	
1月					
2月					

## 令和7年度 有識者等による外部評価 評価報告書について

### 1. 目的

- 令和7年度のフルインクルーシブ教育推進市町村の取組における課題の明確化
- 次年度以降の取組に向けた助言

### 2. 評価者

以下、3名に依頼し、実施。

- 泉 真由子 氏 横浜国立大学 理事（副学長）、D&I 教育研究実践センター長
- 島崎 直人 氏 神奈川県教職員組合 執行委員長
- 榎田 成 氏 海老名市 保護者

### 3. 実施期間・方法

- 実施期間：令和8年2月16日（月）～3月13日（金）まで
- 方 法：書面評価  
（各評価者を訪問し、評価材料等について説明の上、後日、書面にて報告）
- 評価項目：①取組の進捗、②調査研究、③機運の醸成、④総括
- 評価内容：令和7年度の取組における課題および令和8年度以降の取組に向けた助言

### 4. 評価材料

以下の資料に基づき、評価を実施。

- 協定書
- 推進ビジョンと5年間の取組計画
- 「推進会議」（第1回～第3回）に係る議事概要、配付資料
- 「調査研究部会」（第1回～第4回）に係る協議概要、配付資料
- 「提言 海老名市におけるフルインクルーシブ教育の実現に向けて」
- 情報発信実績（ウェブサイト・リーフレット・イベント等）
- 「対話の場」（6月～1月）に係る実施要項、配付資料、参加者アンケート
  - ① 小・中学校保護者 ② えびな支援学校教職員・保護者
  - ③ 県民・市民（オンライン形式・対面形式）
- 海老名市立小・中学校の取組まとめ
- 参考資料
  - ・ 海老名市教育大綱
  - ・ 海老名市立小・中学校の基礎資料
  - ・ 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会（第1回～第3回）

### 5. 報告書

- 報告書の概要および今後の対応については裏面のとおり。
- 報告書（とりまとめ版）は参考資料4のとおり。

### 【評価項目①】取組の進捗

テーマ	
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>各校の実践が試行・検討段階にあり、学校間で取組の深度に差が生じており、学級経営・授業改善・学習評価の具体像が教職員間で十分に共有されていないこと。</li><li>こどもの声や気持ちを推進会議において共有すること。</li><li>教員の働き方改革も進められている観点も含め、取組を検証すること。</li></ul>
助言	<ul style="list-style-type: none"><li>5年間の計画にもとづきロードマップを作成し、現状を可視化すると良い。</li><li>さまざまな機関と連携し、取組を進めると良い。</li></ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"><li>推進ビジョンと5年間の取組計画を見直しながら現状を可視化する。</li><li>教職員の声とともに、こどもの声を聴きながら取組を検討していく。</li></ul>

### 【評価項目②】調査研究

テーマ	推進に向けた具体的な提言の作成
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>研究成果と教職員の日常的な授業改善や支援との結びつきが分かりにくいこと。</li><li>不登校も含めた具体的な提言をもらうこと。</li></ul>
助言	<ul style="list-style-type: none"><li>研究テーマを絞り、実践ガイドとして共有できると良い。</li><li>提言の検証およびアップデートを継続的に取り組むと良い。</li><li>定数改善や人材育成に関わって提言してもらえると良い。</li></ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"><li>フルインクルーシブ教育推進の取組を分析し、成果と課題を整理していく。</li><li>令和7年度の提言を深化していく調査研究を調査研究部会に依頼する。</li></ul>

### 【評価項目③】機運の醸成

テーマ	様々な媒体を用いた幅広い層へのアプローチ
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>「よく分からない」「不安がある」層へ十分にアプローチしていくこと。</li><li>テーマ設定や内容を工夫し、参加者減少や固定化を防ぐこと。</li><li>継続的に社会的マジョリティーに向けて啓発していくこと。</li></ul>
助言	<ul style="list-style-type: none"><li>対話の成果を必ず報告する仕組みを作れると良い。</li><li>県内教職員を対象とした「対話の場」を海老名市から発信しても良い。</li><li>高等学校との対話について積極的に検討できると良い。</li><li>市民からの不安な意見について解消していけると良い。</li></ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"><li>令和8年度も「対話の場」については継続実施する。</li><li>さまざまな媒体を活用し、市民や学校関係者に対して、情報を積極的に発信する。</li></ul>

### 【評価項目④】総括

テーマ	
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>教職員・保護者・市民それぞれが、自分の立場で何を担うのかがまだ曖昧なこと。</li><li>より多くの方と共有し、事業が深化していくこと。</li></ul>
助言	<ul style="list-style-type: none"><li>先進的取組の実験段階から、持続可能な制度・文化づくりへ転換できると良い。</li><li>理念共有の段階から、「誰が・どこで・何をするのか」を明確にできると良い。</li><li>教育支援COの別枠での専任常勤化を定数とできると良い。</li></ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"><li>市民学習会や「対話の場」等を通し、より多くの方と取組を共有したり、共に考えたりしていけるように、実施方法や内容の検討を継続して行っていく。</li><li>理念の共有だけに留まらず、教育支援COを中心とした具体的な取組を積み重ね、成果と課題を整理していく。</li></ul>

## 令和 8 年度フルインクルーシブ教育推進に係るアドバイザー派遣事業について

## 1 目的

神奈川県教育委員会と海老名市教育委員会との協定に基づき、海老名市が目指すフルインクルーシブ教育の実現に向けて、有識者等の専門的知見及び実践的経験を活用した校内支援体制の充実を図るため、有識者に業務を委嘱するとともに、委嘱した有識者を海老名市立小・中学校等へ派遣し、各校の実情を踏まえた実践的な支援・助言を行う。

## 2 事業内容

アドバイザーは、次に掲げる支援を行う。

- (1) 市立小・中学校への訪問支援及び助言
- (2) 学校主催の教職員研修等における講義・指導
- (3) その他
  - ア 海老名市教育委員会及び会議体等への派遣、助言・指導
  - イ その他、目的達成に必要と考えられる取組

## 3 手続き方法

- (1) 希望する学校は海老名市にアドバイザー派遣申込み報告書及び、実施報告書を提出
- (2) アドバイザー訪問・助言後、助言後の対応を海老名市へ報告
- (3) 申込みは希望日の前々月まで

## 4 アドバイザー

氏名	所属	キーワード
神山 努 氏	横浜国立大学教育学部 学校教員養成課程准教授	知的障害 行動分析学 特別支援教育
後藤 隆章 氏	横浜国立大学教育学部 学校教員養成課程准教授	LD (学習障害) 自己調整学習
中村 信雄 氏	東京理科大学教職教育センター講師	インクルーシブ教育 特別支援教育 教育相談コーディネーター
村山 拓 氏	東京学芸大学総合教育科学系 特別支援科学講座 教授	特別支援教育 障害理解 学習環境
田中 みか 氏	鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授	インクルーシブ教育 特別支援教育 校内支援体制
森 秀樹 氏	昭和女子大学人間社会学部 初等教育学科准教授	レゴ®シリアスプレイ®認定ファシリテーター ワークショップデザイン ものづくり・プログラミング教育
武田 緑 氏	学校 DE&I コンサルタント NPO 法人 School Voice Project 理事兼事務局長	学校 DE&I ふつうアップデート インクルーシブな学校

## 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会

### ◆目的

○フルインクルーシブ教育推進のため、本事業のめざす姿を共有し、課題を整理しながら実現に向けての協議を行う。

### ◆メンバー

スーパーバイザー：中村信雄（東京理科大学講師）、校長代表（小・中1名）、教育支援コーディネーター（小・中1名）、小学校保護者1名、中学校保護者1名、えびな支援学校1名、外部団体3名、県教育委員会より2名、教育長、教育部長、学校施設再編担当部長、教育部次長、就学支援課長、教育支援課長、教育支援センター所長、教育支援課指導主事

### ◆取組内容

「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現」

- ・フルインクルーシブ教育推進として、教職員、保護者、市民が現状の学校のあり方について協議し、みんながともに学べる学校とはどういうものかを協議する。
- ・みんながともに学べる学校づくりへの課題を整理し、解決方法を協議する。
- ・インクルージョンの視点を持ち、支援体制や授業づくりに効果的な方法を協議する。
- ・市民学習会の運営について協議を行い、市民会議の設置に向け準備する。
- ・市民会議を令和9年度開始に向けて、具体的な内容について協議する。

### ◆令和7年度の取組について

#### 【成果】

- ・地域の学校の支援を知っていただくために行う5・6月の未就学児対象の学校見学については、必要性や申込方法についてご意見をいただき、次年度の方向性をたてることにつながった。
- ・学級をホームにする取組について協議し、今の学校制度の中でも取り組めることや、今後取り組んでいきたいことなど考えることができた。
- ・委員との協議を通して「対話の場」や「市民学習会」についてより多くの方にフルインクルーシブ教育の取組について興味をもって自分事として考えていただくためのアイデアを考えることができた。

#### 【課題】

- ・様々な立場の人が意見を出しやすくなるような、協議題を考える必要がある。
- ・フルインクルーシブ教育を多くの保護者や市民に周知を図るための工夫を考える必要がある。

◆今年度の重点

○学級をホームにするための具体的な取組についての協議

◆今年度の具体的取組

- ◎学級をホームにする取組
- ◎市民会議の設置について
- 教育支援コーディネーターの役割や校内支援体制づくりについて
- 就学相談と教育支援委員会のあり方
- 対話の場と市民学習会について

◆今年度のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会の開催		○		○				○			○	
フルインクルーシブ教育 の実現に向けた研究		顔合わせ・今後の方針・情報共有		市民学習会 協議（支援体制・授業・就学相談・市民会議）				協議（支援体制・授業・就学相談・市民会議）		市民学習会（予定）	協議のまとめ・次年度に向けて	

# 令和8年度海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 第1回調査研究部会

## 1. 設置目的

海老名市のすべてのこどもが小学校・中学校でともに学べる環境の実現に向けて、推進会議で協議された研究、企画、実践内容や、想定される課題について調査研究を行う。

## 2. 調査研究内容

- A 予防的支援の拡大に向けた教育支援コーディネーターの取組について
- B 就学相談における就学先希望の現状について
- C だれもがともに学べる授業のための指導と評価のあり方について

## 3. 調査研究方法

- ・現行の法令や通知から、現行制度でできることを明らかにし、課題を整理する。
- ・事例を収集し、研究を行う。
- ・必要に応じて、教職員やこどもへの聞き取りおよびアンケート調査を実施する。

## 4. スケジュール

【第1回部会】 令和8年 6月26日(金) 10時～

- ・今年度の調査研究内容、スケジュールについて

【第2回部会】 令和8年 7月頃

- ・調査内容報告、共有、課題の整理 ⇒ 必要に応じて追加調査
- ・調査結果に基づく研究

～ 学校見学 9月中旬 ～ ※柱 A、C に関連して

【第3回部会】 令和8年 10月頃

- ・調査結果に基づく研究
- ・調査結果報告、提言案の作成

【第4回部会】 令和9年 1月頃

- ・第3回推進会議に向けて、提言の整理
- ・次年度の取組について検討

## 5. 調査内容

### A 予防的支援の拡大に向けた教育支援コーディネーターの取組について

(内容)

- ・教育支援 Co に後補充を配置したことによる、コーディネート業務の質的变化
- ・校内における予防的支援の効果的な取組や方法、こどもや教職員の変容
- ・教育支援 Co の、担任/担任外、持ちコマ数等と業務内容の相関

### B 就学相談における就学先希望の現状について

(内容)

- ・本人および保護者が就学先希望を決定した要因や時期について
- ・本人および保護者が通常の学級を選択しない・選択できない理由について
- ・本人および保護者が通常の学級を希望するために必要な支援等について

### C だれもがともに学べる授業のための指導と評価のあり方について

(内容)

- ・ともに学ぶ授業における指導と評価について、現状の課題の把握
- ・こどもの主体的な学びを進めるための評価方法の工夫について
- ・ともに学ぶ授業における環境デザインの工夫について

## 令和 8 年度 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

## 【調査研究部会】

(構成員名簿)

	氏 名	役 職 等
1	中村 信雄 (部会長)	東京理科大学 教職教育センター 講師
2	村山 拓	東京学芸大学 総合教育科学系特別支援科学講座 教授
3	伊藤 由美	国立特別支援教育総合研究所 ウェルビーイング S&I センター 総括研究員
4	島仲 京子	海老名市教育委員会 専任参事 兼 教育支援課長
5	町田 誠祐 (副部会長)	海老名市教育委員会 就学支援課長
6	小藺 洋	海老名市教育委員会 教育支援センター所長
7	野村 勇氣	神奈川県教育委員会 教育局支援部 子ども教育支援課 指導主事
8	関 建哉	神奈川県教育委員会 教育局支援部 特別支援教育課 指導主事
9	大原 照恵	神奈川県県教育委員会 教育局 インクルーシブ教育推進課 GL 兼 指導主事
10	関野 亜希子	神奈川県立総合教育センター 学校教育支援課 主幹 兼 指導主事

- ※ 原則、構成員の欠席があった際は、当該構成員は当該会議の議事等について、部会長に一任することとする。なお、代理出席について、部会長の判断により可能とする。
- ※ この他必要に応じて、関係者を招き意見を聞くことができることとするともに、関係職員等をオブザーバーとして参加させることができる。

## 令和8年度の教育支援 Co の取り組み

教育支援コーディネーター（以下教育支援 Co）を中心とした校内支援体制の構築と、教育支援 Co 研修の充実（5年間の取組計画、⑥）を図るため、以下のように計画する。

### 1 教育支援 Co の養成

教育支援 Co の資質向上を目的として、年間 10 回の情報連絡会を実施する。各校の実践を共有しながら、支援の考え方や具体的な方法について学び合い、学級をホームにしていくための校内支援体制づくりを推進する。情報連絡会では、事例検討や研究協議を通して、社会モデルの視点に立った支援のあり方や、一次的支援の充実に向けた実践力を高める。

### 2 情報連絡会の具体的な内容

#### （1）情報共有

各学校の取組状況や課題、工夫している点などについて共有する。日常の実践を持ち寄り、教育支援 Co 同士が学び合うことで、各校の取組の質の向上を図る。

- ・校内支援体制づくりの工夫
- ・一次的支援を充実させる取組
- ・学級をホームにしていくための実践事例
- ・SC、SSW 等との連携の工夫

#### （2）ケーススタディ

各校のケースを持ち寄り、事例検討を行う。課題解決の方法を検討するとともに、社会モデルの視点を踏まえた支援のあり方を学ぶ。

はじめは指導主事がファシリテーションを行い、段階的に教育支援 Co 自身がファシリテーターとなり、協働的に課題解決を進める力を育成する。

- ・個別対応中心から環境調整を重視した支援へ
- ・一次的支援を基盤とした支援の検討
- ・学級・学校全体への支援の視点

#### （3）部会研究

中学校区等を単位とした 4～5 名程度のグループで研究を行う。テーマに基づき実践を蓄積し、途中または年度末に成果を共有する。

【研究テーマ】「すべてのこどもが安心して過ごせる校内支援体制づくり」

（例）・インクルーシブサポートスタッフの効果的な活用

- ・スペシャルサポートルーム、心の教室との協働
- ・補助指導員と学級との連携
- ・通級指導教室と学級との連携
- ・校内リソースを活用した支援体制づく

※ 各部会の課題に応じてテーマ設定を行う。

#### （4）有識者からの助言

有識者が情報連絡会に参加し、必要に応じて講義や助言を行う。教育支援 Co として必要な基本的な考え方や実践の方向性について理解を深める。

- ・インクルーシブ教育の基本的な考え方
- ・教育支援 Co の役割
- ・社会モデルの視点
- ・一次的支援の考え方
- ・ファシリテーションのあり方

### 3 神奈川県立総合教育センターとの連携

- ・海老名市が依頼したテーマに沿った講義について、講師の派遣
- ・海老名市教育委員会指導主事の教育相談コーディネーター養成研修講座の聴講
- ・その他コーディネーター養成についての相談

### 4 開催予定

	日時	内容
1	4月23日(木) 13:30~14:50(80分) (場所:こどもセンター201)	・海老名市のフルインクルーシブ教育について ・教育支援Coの役割について
	15:00~16:50	支援Co、SC、SSW連絡会①
2	5月20日(水) 13:30~14:50(80分) (場所:こどもセンター201)	・情報共有・ケーススタディ、部会研究 ・有識者からの助言
	15:00~16:50	支援体制づくり推進委員会①
3	6月25日(木) 9:00~12:00(180分) (海老名支援学校、現地集合)	視察:えびな支援学校
4	7月21日(火) 13:30~16:50(210分) (場所:支援センター学習室)	・情報共有、部会研究 ・有識者からの講義
5	9月24日(木) 13:30~14:50(80分) (場所:こどもセンター201)	・情報共有・ケーススタディ、部会研究 ・有識者からの助言
	15:00~16:50	支援体制づくり推進委員会②
6	10月22日(木) 13:30~14:50(80分) (場所:こどもセンター201)	・情報共有・ケーススタディ、部会研究 ・有識者からの助言
	15:00~16:50	支援Co、SC、SSW連絡会②
7	11月27日(金) 15:00~16:50(110分) (場所:支援センター学習室)	・情報共有、部会研究 ・有識者からの講義
8	12月17日(木) 15:00~16:50(110分) (場所:こどもセンター201に変更)	・情報共有、部会研究 ・有識者からの講義
9	1月21日(木) 13:30~14:50(80分) (場所:こどもセンター201)	・情報共有・ケーススタディ、部会研究 ・有識者からの助言
	15:00~16:50	支援体制づくり推進委員会③
10	2月25日(木) 13:30~14:50(80分) (場所:こどもセンター201)	・情報共有・ケーススタディ、部会研究 ・有識者からの助言
	15:00~16:50	支援Co、SC、SSW連絡会③

## 4歳時から始める就学相談について

### 【目的】

就学相談を1年早く始め、今後就学予定の児童の情報を早い段階で得ることで、地域の学校において必要な環境を整えることができる。また、入学への不安感を少しでも軽減していけるようにし、保護者や本人が地域の学校を選びやすくしていく。

### 【現状の就学相談】

希望	4, 5, 6月	7, 8, 9月	10, 11, 12月	1, 2, 3月
支援学校	面談① → 支援学校見学会 小学校見学	面談② 支援学校来校相談	市教育支援委員会 支援学校入学相談	・就学先の支援学校が決定 県教育支援委員会
支援級 通級等	面談 5・6月申込制学校見学	わかば・保育園・幼稚園観察 小学校見学会	市教育支援委員会 小学校見学会	市教育支援委員会 通級指導教室見学・面談 学校との入学前面談

### 【課題】

- 5歳時になってから就学相談を始めると、必要な設備や備品、人的支援の準備が間に合わない。
- 支援学校を希望している場合、どのような環境、支援があれば地域で学ぶことができるのかを検討する時間が短い。

【スケジュール(案)】

令和9年度・4歳時 ・5歳時は現状の就学相談を実施

希望	3月	4, 5, 6月	7, 8, 9月	10, 11, 12月	1, 2, 3月
支援学校 支援級 通級等	3歳児 保護者 説明会	5・6月申込制学校見学	面談①	わかば・保育園・幼稚園観察	支援学校 見学会

令和10年度・5歳時

希望	4, 5, 6月	7, 8, 9月	10, 11, 12月	1, 2, 3月
支援学校	面談②	小学校見学	市教育支援委員会	就学先の支援学校が決定
支援学校 見学会	支援学校 見学会	支援学校 来校相談	支援学校 入学相談	県教育支援委員会
支援級 通級等	面談①、②	小学校見学会	市教育支援委員会	市教育支援委員会
	5・6月申込制学校見学	わかば・保育園・幼稚園観察	小学校見学会	通級指導教室見学・面談
				学校との入学前面談

【方向性】

- 4歳時の就学相談を8月から始める。
- 4歳時から始めるのは、すべての子どもが地域の学校で学ぶための環境調整を早期から実施するため。
- 海老名市役所関係課との連携(子ども育成課・保育幼稚園課・障がい福祉課)
- 海老名市内関係機関(保育園・幼稚園・子ども園・療育)等への周知

## 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議設置要綱

### (趣旨)

第1条 この要綱は、海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議（以下「推進会議」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (設置目的)

第2条 全ての子どもたちが地域の小・中学校に通い、同じ場で共に学び共に育つことができる環境の実現を目指し、海老名市・神奈川県との緊密な相互連携と協働による取組の推進を図り、諸課題に係る協議及び取組方針の決定するため、設置する。

### (所掌事項)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項について協議及び決定を行う。

- (1) フルインクルーシブ教育の実現に向けた研究・企画・実践に関すること
- (2) フルインクルーシブ教育の普及・啓発に関すること
- (3) その他、フルインクルーシブ教育の推進に関すること

### (組織)

第4条 推進会議は、別表に掲げる者をもって構成する。

2 議長は、海老名市教育委員会教育長をもって充てる。

3 推進会議は、必要があるときは、専門的事項に関し識見を有する者、関係する県・市職員、その他の者に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

### (会議の開催)

第5条 推進会議は、議長が必要に応じて開催する。

2 議長は、あらかじめ指定する者に、その職務を代理させることができる。

### (部会)

第6条 推進会議は、その所掌事項に係る専門的事項を調査協議させるため、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、議長が指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから議長が指名する。

4 部会長は、部務を掌理する。

### (事務局)

第7条 推進会議の庶務は、海老名市教育委員会教育支援課、神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課及び総合教育センター学校教育支援課が行う。

(補則)

第8条 具体的な実施事項、遵守事項等については、海老名市教育委員会及び神奈川県教育委員会の合意の上、決定する。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

この要綱は、令和6年5月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和7年5月1日から施行する。

附則

(施行期日)

この要綱は、令和8年5月1日から施行する。

別表（第4条関係）

海老名市教育委員会	教育長
海老名市教育委員会	教育部長
海老名市教育委員会	教育部学校施設再編担当部長
海老名市教育委員会	教育部次長
海老名市教育委員会	教育総務課長
海老名市教育委員会	就学支援課長
海老名市教育委員会	教育部専任参事 兼 教育支援課長
海老名市教育委員会	学び支援課長
神奈川県教育委員会	教育長
神奈川県教育委員会	教育局教育参事監（学校教育担当）
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進担当部長
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進課長
神奈川県教育委員会	県央教育事務所 指導課長
神奈川県教育委員会	総合教育センター 教育支援部長
神奈川県教育委員会	県立えびな支援学校長

## インクルーシブ教育の更なる推進に向けた 連携と協力に関する協定書

海老名市教育委員会（以下「甲」という。）及び神奈川県教育委員会（以下「乙」という。）は、相互の連携を強化し、インクルーシブ教育の更なる推進に向け、次のとおり協定を締結する。

（趣旨及び目的）

第1条 本協定は、乙が甲を「フルインクルーシブ教育推進市町村」として指定するとともに、甲及び乙が、緊密な相互連携と、協働による活動を推進し、全ての子どもたちが地域の小・中学校に通い、同じ場で共に学び共に育つことができる環境を実現することを目的とする。

（連携事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について連携、協力して取り組むものとする。

- (1) フルインクルーシブ教育の実現に向けた研究・企画・実践に関すること
- (2) フルインクルーシブ教育の普及・啓発に関すること
- (3) その他、フルインクルーシブ教育の推進に関すること

2 甲と乙は、前項各号に定める事項を効果的に推進するため、推進会議を立ち上げ、随時、情報を交換し、協議を行うものとし、具体的な実施事項、遵守事項等については、甲乙合意の上、決定する。

（守秘義務）

第3条 甲及び乙は、本協定に基づき知り得た機密情報を相手側の書面による事前の承諾なしに第三者に開示し、もしくは漏洩し、又は本協定の目的以外に使用してはならない。

2 前項の規定は、本協定の期間が終了した後も有効に存続する。

（協定の見直し）

第4条 甲及び乙のいずれかから、協定内容の変更を申し出たときは、その都度協議し変更を行うものとする。

(有効期間及び更新)

第5条 本協定の有効期間は、本協定締結の日から令和7年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間が満了する日の30日前までに甲又は乙から相手方に対し、書面による特段の申し出がないときは、本協定の有効期間は、1年間延長されるものとし、以後も同様とする。

2 甲及び乙は、前項の定めにかかわらず、相手方に対し、30日前までに書面をもって通知することにより、いつでも本協定を終了させることができる。

(雑則)

第6条 甲及び乙は、本協定に定めのない事項及び本協定の運用等にあって生じた疑義に関する事項については、信義誠実の原則に従い、その都度協議の上定めるものとする。

本協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名の上、各1通を保有する。

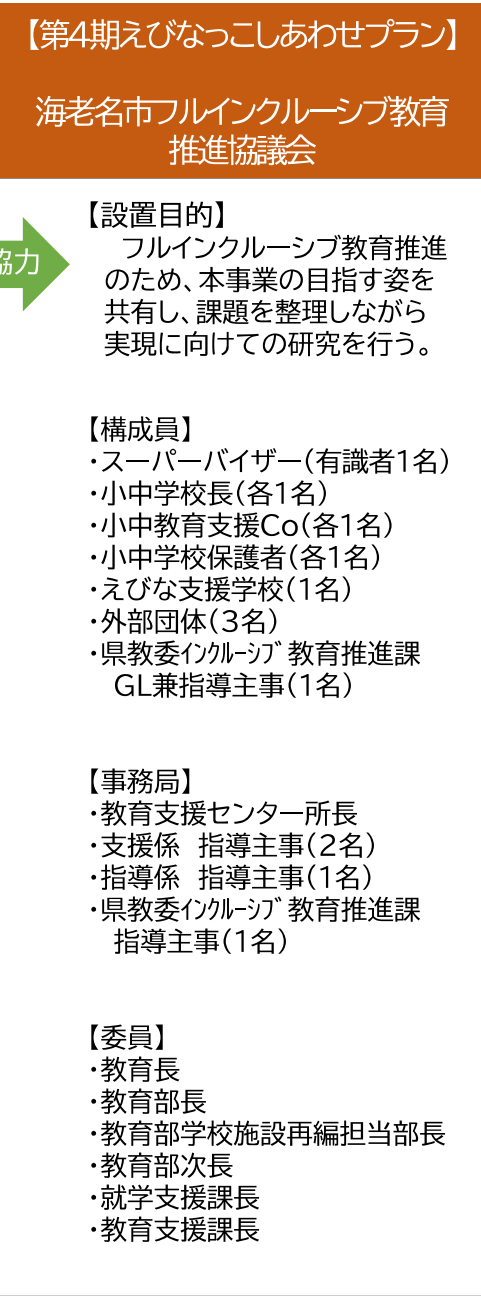
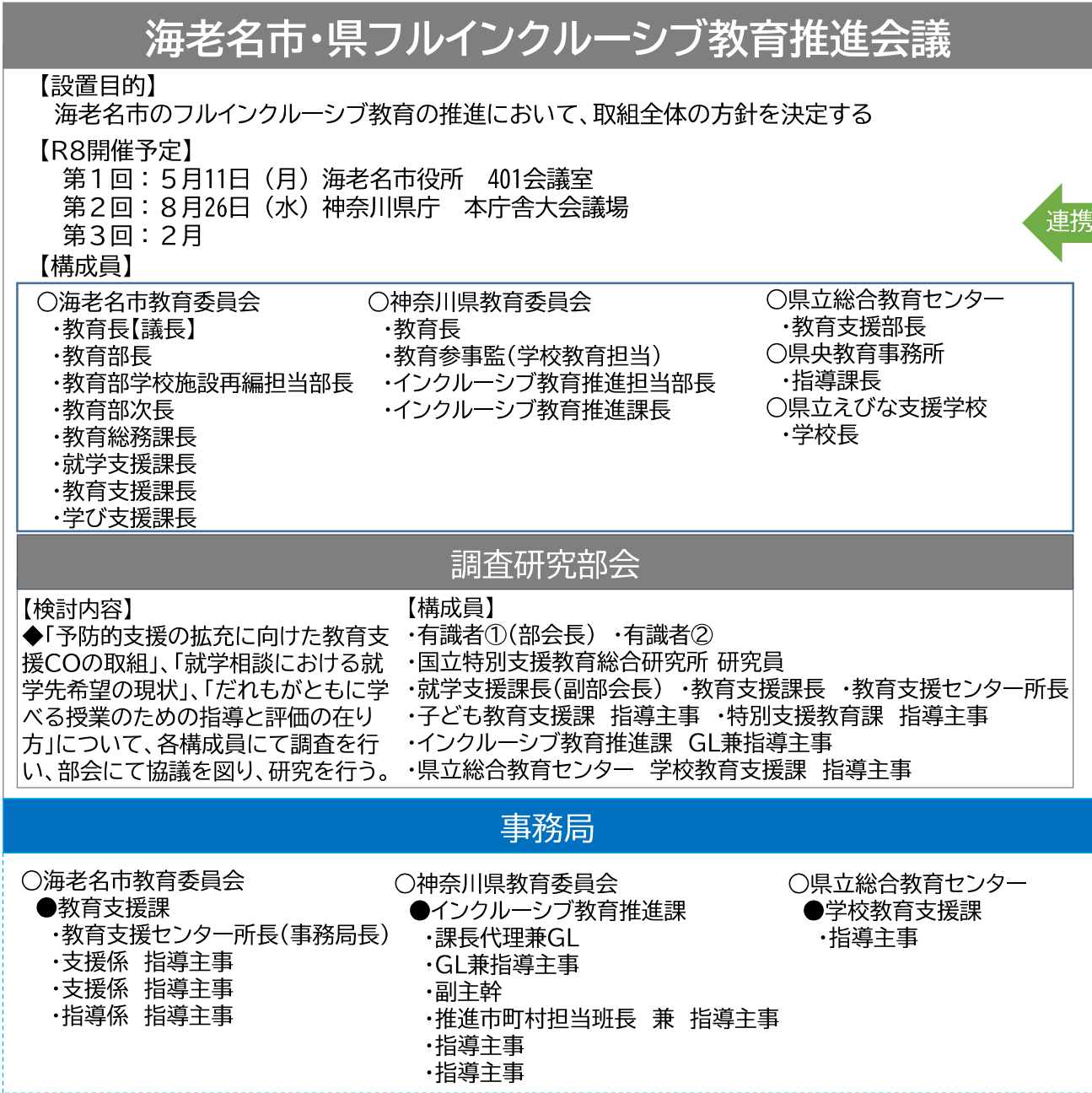
令和6年3月29日

(甲) 神奈川県海老名市勝瀬 175 番地の 1

海老名市教育委員会教育長 伊藤 文康 (自著)

(乙) 神奈川県横浜市中区日本大通 1 番地

神奈川県教育委員会教育長 花田 忠雄 (自著)



令和7年度 有識者等による外部評価 評価報告書（とりまとめ版）

評価項目	主な観点	現状認識	R7年度の取組における課題	R8年度以降に向けた助言
① 取組の進捗	A 推進会議 B 推進ビジョンと5年間の取組計画 C 海老名市の取組 D その他	【成果】 5年間の取組計画にある21項目について、取組を着実に進めることができた  【課題】 進捗状況を分かりやすく伝えること	○推進ビジョンでは「学級がすべてのこどものホームとなる」ことが明確に示されていますが、R7年度は各校の実践がまだ試行・検討段階にあり、学校間で取組の深度に差が生じています。特に、学級経営・授業改善・学習評価の具体像が教職員間で十分に共有されていない点が課題であると考えます。  ○取組計画にある「みんな」の中にいる、こどものこえや気持ちを推進会議において共有することも重要ではないかと考えます。  ○教員の働き方改革も進められている観点も含め、取組を検証することも重要かと考えます。	○「ビジョン→行動→成果」を可視化するロードマップ化し、5年間計画を年度ごとの「到達目標(学校・教育委員会・市民)」として整理し、学校現場で「今年は何をどこまでやればよいのか」が一目で分かる形にすることが重要であると考えます。  ○中高連携の観点から、対話の場については、インクルーシブ教育実践推進校との共有の場が必要であると考えます。  ○不登校のこどもが増加傾向にあることから、学級や教室という概念を広く持ち、どこの機関ともつながっていない家庭・こどもに対し、訪問等、条件整備等、本事業で積極的に取組を進める必要があるのではないかと考えます。

評価項目	主な観点	現状認識	R7年度の取組における課題	R8年度以降に向けた助言
<p>② 調査研究</p> <p>令和7年度テーマ 「推進に向けた具体的な提言の作成」</p>	<p>A 部会構成及び運営</p> <p>B 検討内容</p> <p>C 提言</p> <p>D その他</p>	<p>【成果】 調査研究に基づき、具体的な提言を作成したこと</p> <p>【課題】 海老名市の各校の進捗状況を踏まえた調査研究を実施すること</p>	<p>○調査研究部会による検討や提言は進んでいるものの、研究成果が教職員の日常的な授業改善や支援にどのように結びつくのかが分かりにくい点が課題と考えます。</p> <p>○具体的な提言が、「就学相談のあり方」の他、不登校のこどもなど学校の包摂性を高めるための柱も必要ではないかと考えます。</p> <p>○具体的な提言は、先を見据えられます。海老名らしいオリジナリティがあるとより良いと考えます。</p>	<p>○R8年度以降はテーマを絞り、「この研究で学校現場が何を変えられるのか」を明確にしたうえで、実践ガイドとして共有することが有効なのではないかと考えます。</p> <p>○本提言の検証及びアップデートについて、継続的に取り組む必要があるのではないかと考えます。</p> <p>○対話の場として、メタバースを活用していることから、さらなるメタバースの活用について、調査研究を進めていく必要もあるのではないかと考えます。</p> <p>○少子化が進む今こそできる定数改善や中期的なビジョンを持った人材育成を積極的に提言していただきたいです。</p> <p>○地域の実例を取り入れながら、海老名らしさがあると良いです。</p>

評価項目	主な観点	現状認識	R7年度の取組における課題	R8年度以降に向けた助言
<p>③ 機運の醸成</p> <p>令和7年度テーマ 「様々な媒体を用いた幅広い層へのアプローチ」</p>	<p>A 対話の場</p> <p>B 市民学習会</p> <p>C 情報発信</p> <p>D その他</p>	<p>【成果】</p> <p>「対話の場」を中心に取組を充実させたことで教職員及び子ども意識醸成が進んだこと</p> <p>【課題】</p> <p>このテーマに触れる機会が少ない人たちへのアプローチ方法を工夫すること</p>	<p>○対話の場や市民学習会は一定の成果を上げていますが、参加者が関心層・積極層に偏りがちで、「よく分からない」「不安がある」層へのアプローチが十分とは言えないように思います。市民の声がどのように施策や学校運営に反映されたのかが分かりにくく、対話の意義が伝わりにくい点が課題であると考えます。</p> <p>○継続していくことで、参加者減少や固定化を極力防ぐために、対象、テーマの設定や内容の工夫が、今まで以上に求められていくと思います。</p> <p>○継続的に社会的マジョリティーに向けた啓発は必要だと思えます。</p> <p>○誰にでも理解しやすい工夫があるとより良いです。</p>	<p>○「市民の声 → 市の対応 → 次の改善」という流れを可視化し、対話の成果を必ず報告する仕組みを作ることが信頼形成につながるのではないかと考えます。</p> <p>○市民、県民を対象とした「対話の場」はありますが、県内教職員を対象とした「対話の場」を海老名市から発信してもよいのではないのでしょうか。</p> <p>○海老名のフルインクルーシブ教育で育まれた子どもが、どのように高等学校で学びを深めるのかが気になります。高等学校、とりわけインクルーシブ教育実践推進校との対話について積極的なご検討をお願い致します。</p> <p>○推進の柱 ABC を引き続き、継続されると良いです。AB では、少数の方が不安からか、マイナスな意見が出ておりますが、その解消ができると良いです。</p>

評価項目	主な観点	現状認識	R7年度の取組における課題	R8年度以降に向けた助言
④ 総括	<p>A 全般(企画・研究および実践・普及啓発)</p> <p>B 次年度に向けて</p> <p>C その他</p>	<p>【成果】 推進会議と調査研究部会との連携を強化できたこと</p> <p>【課題】 推進することでどのような学校の姿をめざしているか具体的に共有していくこと</p>	<p>○フルインクルーシブ教育の理念は市全体で共有されつつある一方、「分かったつもり」と「実際にできる」の間のギャップが顕在化しています。教職員・保護者・市民それぞれが、自分の立場で何を担うのかがまだ曖昧であるように推察されます。</p> <p>○「学校改革」の取組であるということ、より多くの方と共有し、「教職員もよく、みんなもよい」方向性をめざして、事業が深化していくことを大いに期待しています。</p>	<p>○海老名市が「フルインクルーシブ教育推進市町村」として全国的にも注目される段階に入ったと捉えています。R8年度以降は「先進的取組の実験段階」から「持続可能な制度・文化づくり」への転換が鍵になるのではないかと考えます。</p> <p>○R8年度以降は、理念共有の段階から、「誰が・どこで・何をするのか」を明確にするフェーズに移行する必要があると考えます。</p> <p>○予算の課題もあり、難しい点もあるかと思いますが、フルインクルーシブ教育を進めていくためには、こどもにかかわる多くの大人が必要です。さらに、コーディネートしていく側の負担は、今後ますます増加していくことが予想されます。教育支援 Coの別枠での専任常勤化を定数とすることが必要であると考えます。</p> <p>○さらに、これを進化させるため、5年間の取り組み計画を丁寧に分かりやすく進めてください。</p>